

【事務局】 開会のあいさつ、会長あいさつ及び各委員の紹介
委員総数9名全員の出席により会議が有効に成立することの確認

【事務局】 緑の審議会についての説明、議事進行を会長に依頼

【渡邊会長】 春日井市附属機関等の設置等に関する要綱第10条の規定に基づく会議公開の説明

傍聴者がいないことを報告

本日の議事録署名者に稲垣暁永委員を指名

報告事項について事務局に説明を求める

【事務局】 資料に基づき説明

【渡邊会長】 事務局の説明について、質問、発言を求める

【波多野委員】 2、3質問させていただきます。採石場の関係でありますけど、去年で採掘期間が終わっているが、また継続になっています。一応、採石場を継続するという申し込みが採石場からあるわけですが、確認して、やってもいいか許可を出していますか。

【事務局】 許可権者は県ということで、認可をしています。

【波多野委員】 というのは、外之原町の採石場内から相当強い、酸性になっている。硫黄分を含んでいるから硫酸系の性質ですけど。あそこの採石場が大きくなってから、うぐい川の外之原下流から魚、昆虫類も水生動物は消えてしまった。初めはひのき峠の所に工場ができたから、あそこからおかしい水が出るのではないかという噂が飛んでおりましたが、そうではないということが確認されて、採石場から非常に強い酸性の水が出るということが分かったのです。それで魚が全然いない。もう何年も続いています。本来だったら、条例で言ったら、その手立てを取って採石をすべきであるわけですが、いつも許可が出てしまうのでそのままになっています。

【事務局】 そのあたりにつきましては、環境保全課の方で水質等の調査は行っておりますけど、主管である環境保全課に伝えまして、いま一度、水質の状況等は確認させていただきます。

【波多野委員】 環境保全課は、知っているんです。条例に基づくとそれを直してからしか、本当は採石はできない。広い範囲だと言いますが何かの手立てを打たないと採石後も、たぶん出ると思います。ほっておいたが為に弊害が出てきます。やはり緑と同じ事ですが、川の魚、生物が住めなくなってしまうということとは、うぐい川には魚がたくさんいたろうが、私が知っている範囲で、昭和20年代には、うぐいの魚はあまりいなかった。他の魚はたくさんいた。ところが今は全然いない。昆虫も出ない。そんな状態で長年続いている。池を掘って流れる物をためて酸性度を中性に近い状態に戻して流してもら

わないと、いかんと思う。そんなことを思います。難しいことだけど、次に期限になったから次も継続すると、それで印鑑押してということはいけない。言いたいことは詰めて業者の方に正常な水として流れるような形を取らせないとはいけない。

【渡邊会長】 私も化学が専攻ですから、この環境問題に関しては色々と勉強させていただいています。水質が、もし亜硫酸ガスですか。今のお話だと養分が多いというようなお話でしたので。おそらく硫酸性の水です。p hを測ればすぐ分かることだと思います。

【波多野委員】 p h 4以下らしいです。

【渡邊会長】 公園緑地課の仕事というよりは、むしろ環境保全の問題ですから、そちらの方に連絡を取ってもらって、もし本当だとすれば大問題ですからね。測ること自体はそんなに難しいことではないです。今おっしゃられる波多野委員の御意見のようなことが現実問題としてあるならば、早急に手を打たなければなりません。なんといたってもデータがないと審議になりませんので。環境保全課の方と連絡を取ってください。

【波多野委員】 わかってはいるけど、これを許可するのは公園緑地課の関係になると、と思って話しています。

【事務局】 当然に採石の計画の延長、継続等の認可については、春日井市の関係部署の意見を添えて県の方へ提出するという流れになっています。その際に環境的な問題があるようでしたら、そちらの方から指摘事項としてあげさせていただいて、認可について県の方へあげていくという手続きを取らなければならないです。

【波多野委員】 保存樹の話もありましたが、新しく札をつけていただいて、本当に管理していただいているということでは非常に喜んでます。ところが、以前は1,200本ぐらいあったのが、今だいたい半分に保存樹がなくなってきたわけですね。我々のグループも今、名木とか、市内では特にめずらしい木、又は連理(れんり)の木だとか、市内では何番目だとか、種別において、類別で一番大きい木を頭から調べて、由来とか聞いてまとめていますが、どんどん調べた後にまた見に行くと切られている。御存じだと思いますが、つい最近では春日井市で一番大きい山桜がずっぱりと元から切られてしまいました。この前は春日井市で一番大きな太いケヤキ。場所というなら気噴町の子安神明社の入口、いわゆる大留です。境になります。大留の城跡ですね。大留城の碑のある所にケヤキが1本立っていました。測って由来等を聞いている内に、切られてしまった。本当にどんどん切られてしまうのです。それで半分近くになってしまった。春日井市は木を大事にしない所だなあというのが分かる。切る前には市の方に、登録されている木を切るけどいいか、問い合わせはあるのかどうか。

【事務局】 そちらの方に関しましては、案件にもよりますが、事前にこういった状況で切りたいという話もありますし、また切った後に切りましたので解除してください。と書類が出ますので、一概にどのタイミングと言う事はありません。

【波多野委員】 極端に邪魔になればやむを得ないでしょうけど、出来たらひとつ大木など市が指定したものであれば、そう簡単に切らずに。区画整理でバタバタと減ってしまったんですね。市内では、貴重な木もあります。イチイガシとか、鹿の子木、いわゆる子鹿の木と言いますね。クスノキ科の。きれいな鹿の模様のある大木が神社にあります、非常に数が少ないです。イチイガシは市内で数本しかないです。小さいのを入れて。小さいと言っても成木なんです、苗木は六号トンネル、トンネルの方には苗木程のものはありますが尾張では非常に貴重ですが、すかさずと消えていきます。なんとか貴重なものは小さな公園でもいいから形にして残してもらいたい。春日井市民は木を大事にしない所だなあと。大きな木は何か言われがあるはず。田んぼの始まる前には水路を土上げして水が良く通るようにやって、木の下にむしろを敷いて御苦労さまという遊戯がとられたものです。昔から休んだりした木が、スコンスコンと消えていく。なんとか残したいものだと思うんだが。出来る限り、切らないといけないと言った時は、出来たら小さな公園でもいいから残していきたい。そんなことを思います。要望です。

【事務局】 御承知のように春日井市は区画整理がさかんで、面的整備をするために区画整理手法で行なっておりますので、保存樹を指定してある所についても、計画によって宅地になったりとか、道路等の整備をしなければならぬということをやむをえずということもあるんでしょうけど、逆に言えば御指摘のように、そういう所を公園として指定するのだとすれば既存の樹木はそのまま残すことはできるものですから。

【波多野委員】 我々の会は、昭和42年に出来ているのですか。ちょうどその時は、ニュータウンで赤裸になっていた。なんとか街を作るにしても緑をひとつもなしに削ってしまって、石火のごとく家を作る。そんなことではなくて、丘陵を削ったのならどこか少しでも木を残して緑のある街づくりにならないものかと言ったけど、スパッとなくなってしまった。緑化推進だと言って市にはっぱかけたのが我々の会なんです。小島市長のときでした。それで緑化推進都市となった。大木も市の方で調査され、せつかく1,200本位あったのが、半分ぐらいになって非常に情けないことだと思うのですね。なんとか緑を残していただくよう、お願いしたい。

【渡邊会長】 市の方としまして、保存樹としている訳ですからね。そう簡単に都合によって無くしていくというのはされていないのではと、私自身思うのですが。

【波多野委員】 むろん、枯れたのもありますよ。外之原町の市内で一番大きいアベマキも前年の暮れに枯れました。保存樹にしているも。枯れていくのもあるんです。寿命が来て環境が変わって。生きているものを元から切るのは情けなく思います。

【稲垣重男委員】 私、造園業協会の会長をやっておりますが、今、委員の方からお話があった話はそちらの方面から見たお話が多いのですが、ひと言言っておかないといけないのは、春日井市というのは要するに都市化されて非常に住民の苦情が多いです。そういう事で私は造園業ですので、現場で仕事をしている訳ですが、その家の近所にいる人は、その木の為に苦痛を感じているというのもあるんです。実際の話ね。色々な方面から見てどうかこういう方法にしたらいいか、というのを検討して頂いて、そしてそれを活かしていくと。こういう方法を市の方に考えて頂けると大変いいと思います。市役所近辺でいわゆるコナラの木、大きな木があったんですね。それをなんとか切ってくれと言われ、保存樹だからそんな訳にはいかないと話して、施主さんから市の方にアプローチがあったと思うのですが。でも周りの住民はその木が落葉樹だから、秋になると、掃いても、掃いても葉っぱが落ちると、そういう苦情がその家に来るわけです。するとその人が困ってしまうんです。実際の話言うと。そういう所をどういう風に掌握していただいて、例えばそこでは不向きだと、いけないようであれば移植するなり、何かそういう方法でも考えて、そういう知恵を絞っていただいて保存樹を残していくという形を考えていただければいいけど。我々仕事をしていると何が怖いと言ったら住民です。住民が怖くて、事故が怖いんです。大きな木になって枝が枯れたと。今、春日井市の各神社の保存樹、クスノキ、こういった物がほとんど病気にかかったとか何かで枝が枯れているのです。それが落ちて。例えば、お宮さんやそんなところだったら通学の場所とか、色々な場所になっているから。実際の話そういった場所を一步踏み込んで、あれはいかんから切らないかん。これは切っていけない、そういうのではなくて、一步踏み込んで、もうちょっと知恵を絞って何かいい方法があれば、そういったことを指導していただければ、造園業者としても頑張ってやりますので。よく寄与してください。

【波多野委員】 だいたい保存樹は、家庭の庭にあるのがありますが、これは管理されている。大きくなってよそこに飛び出すことはないですが、案外切らなくてもいいと思うようなお宮さんだとか、そうではなくて個人の物ではない、そうしたものが消えていくのですが。先ほども言いましたが、市内で一番大き

な山桜は人家の方へ延びてきているので、一本は前に枝元から株立になっています。切られています。内津町というのは、昔、山桜の名所でした。名古屋から自転車で見に来たという札まで残っています。当時の桜が、二次林のひとつではあるが、大物の周り5メートル位の物が内津町のお宮さんの前の急斜面に残っています。むろん、花は今はつかないです。古くなって、他のマント群落を形成する植物に覆われて、みんな先枯れしてしまっていますが、元だけは範域で残っております。たくさんあります。11本位ですかね。大木が、狭い範囲に。明るい所にあるものだけ1本残って見られる所にあったんですが、まして元から切らなくても、5メートル位の所で切って、また保護させればいいのだが、スパッと切ってしまって。春日井市の花は桜です。公園緑地課の援助を得て廻間町の奥山の桜をなんとか生かそうということで、数年、花を咲くようにしようと、公園緑地課の応援で今年も下草刈りをしたのですが、案外やり手がなくスポッスポッと切られ、非常に残念です。現在はケヤキで一番大きいのは名城大学の庭にあります。新しいけど、あそこが一番大きいです。よその屋根を壊すとか、そういうのになってはいけないが。そういうのは元から切るのではなくて、延びている枝を取ってもらいたいなあと。今、小牧市では天然記念物にした木は、全部そうです。ひと枝取るのに50万かかります。それで保護しているのです。春日井市の場合は根元から切られ非常に残念です。天然記念物にしたほうがいいかなあと、一部思ったことがあるのですが。元々、保存樹ということがあるので、天然記念物にせずにはしています。一部は天然記念物にした方がいいかなあと。そうすると傷んだ物が治せる。一番大きなイチョウとすると西尾町のイチョウです。周りが朽ちています。何とかしなければいけない。イチョウの大木はたくさんありますが、西尾町が一番大きいです。また、年数が一番古いです。

【渡邊会長】 色々な貴重な御意見を頂戴している所ですが、それぞれのお立場で色々な御意見、御要望が市民の皆様からあろうかと思いますが、つぶさに総合的にも検証していただきながら、進めて頂くと言う事が、重要なことだと思います。今、お二人の委員の方から貴重な御意見を頂戴いたしましたので、そういったことは参考意見として考慮していただきながら緑化行政に努めて頂きたいなあとと思います。よろしく願いいたします。

【事務局】 かしこまりました。

【渡邊会長】 その他、委員の皆様から自由に意見をお願いします。

【加藤委員】 今、波多野委員から一番大きいイチョウの話だとか色々聞かさせて頂いたのですが、種類によって保存樹の、例えば春日井市で一番大きいイチョウの木とか、そういう案内、表示をつけることは出来ないものなんです

か。種類によって、一番大きい木だとか一番樹齢の長い木だとか、そういった表示はしていけないのですか。

【事務局】 今、ホームページで紹介しているのは、主だったものについて写真を撮った形で掲載をさせていただいていますけども。特に数字的に一番太い木だとか、高さが高いとか、貴重なもの、そういうような形での御案内はしておりませんので、その辺については、今の御意見を踏まえましてそういう事ができないのかどうか考えて行きたいと思います。

【波多野委員】 保存樹制度のお金は昨年から無くなりましたよね。特に出来れば大きな洞穴が出来ているとか口が朽ちているとか、そういうのをなんとか、この木は治さないといけないなあという物に補助とか出るようにして、特に市内では数少ない木、特殊なものは、ちょっと朽ちた所を埋めるだとか、そういった物は相当、お金がかかるので、みんな街ではやれないと思うので、そういうのに補助して出せないのかなあと、例えていうと松河戸町にタブノキがあります。この木も洞穴ができています。松河戸町の氏子総代に頼んでありますが、やせてしまって木が傷んでいます。今までこんもりとした林が、道路になってしまって、周りが明るくなってしまったので環境が変わってしまったので、非常に木が衰えております。保存樹が何本かありますけども、その内の神木になっている木が傷んでいます。ただし、その木の元に尾張ではそこしかないというマツバラが生えている。調べると、貴重なものだとすると盗まれてしまいますので、今、頼んで網をやってあります。そういう朽ちたものを治してやらないと、そういうのが幾つかあります。立派な朽ちたそのものの方がいいというのは、牛山町の瑞林寺のクロガネモチです。見事に立派です。あれは、お寺と樹齢が一緒です。皮だけで生きていて、良く生きていたなあという木もあります。ところが、そうでないやつは、朽ちたから衰えたやつは、できれば風雪に耐えてきたものなので、なんとか治してやろうとやっていたらと。緑の寄付金をこういうものに使ってもいいのではないかと思います。

【渡邊会長】 具体的にそういうものがあれば、申し出ていただいて。検討させていただくというのは可能ですよね。

【事務局】 今までですと、年間で4,000円という形で、補助金を出しておりましたけども、それも長年やってきた中で御理解がいただけたということで補助金を打ち切った経緯がございますけども。

【波多野委員】 もうひとつお願いしたいのが、緑の基金が2億5,000万円あるんだが、実際里山作りとして、全部の丘陵なり山を里山にすることは出来ません。一番みんなの目につくところで、一番人が寄る所で、その周辺の所、一部でいいから、そうした資金で里山作りを。里山と言っても木をあらくしているから里山という訳ではない。45年もほかってきたのだから。45年か50年も

かかるのです。絶えず目を通して人間との関わりを持っておかないと里山というのは成立しないのです。毎年、手を加えないといけない。目的の持った形の里山にする。例えて言うと赤松林、黒松林、または昔で言う薪炭林(しんたんりん)、そういうような目的に沿った里山と、それからほったらかしの遷移させていく林というような形で、一部でいいから作ってもらいたい。ということは今、環境の方で市内の希少植物を調査しているんです。調査と言っても、見つけても保全するかというと、数が多くて保全できるはずがない。調査した内に、初めに見つけた貴重な物が消えていくのです。そんな状態であるのです。人間が手を放したら、その時点から遷移していくのです、進行遷移になります。今までは、赤松を優先とさせた丘陵の林であったのが、今は赤松は非常に尾根筋ぐらいにあって、谷間から消えていっている。林は絶えず、移動していくのです、里山というのはそれを目的に応じて長年の経験によって、毎年手を加えて作ってきたもの。毎年下草刈りをして、熊手を持ってごうかきかかって焚火をして、きれいな風通しのいい林を作ってきた。そこには四季おりおりの花が咲いた。多様性に富んでいたから昆虫から何もかもが、そういうところに生活していたのですが、今はお宮さんにせよ、ほかかっておいた所は極相に近い状態になった椎の木の本林。冬でも緑です。キキョウにせよオミナエシにしろ、ササユリにせよ段々消えちゃっています。非常に単調な林になります。1年中、緑ですから下は暗くて、下にあった草は消えてしまいます。そんな状態です。昆虫も限られた、椎の木などを食う昆虫のみになります。コガネムシなどです。きれいな蝶が飛ぶような林ではない。なんとか環境の方で貴重な植物は調査しているが、保全する形はできませんので、里山にあったのが消えていったのだから、里山にすれば戻ってくるのです。そういう形である場所を、選定した場所を作っていただきたい。そういうのには利用できませんか。

【渡邊会長】 ありがとうございます。非常に重要な問題だとは思いますが。色々と市全体の施策を講じていく中でうまくそういうことがとりこめていけるのかどうか。

【波多野委員】 縦割りなので、それでいけません。意見を調整して、ぱあっとやろうというようにはできないのです。

【事務局】 緑の関係もあり、大きく言えば環境の関係もあり、私共も今のお話の少年自然の家とか、都市緑化植物園、みろくの森とか、そういう所についての中で、できる限りそういうような里山の中で私の方が出来るだけは、今の所、手は入れていますけども、今の私どものスタンスとしては、あくまで緑化振興というどちらかというところの中の緑の少なくなったものを、どのような形で確保し、推進をしていくか、という立場ですので、保全という中では、これ

も必要だと思いますけど、どちらかという環境保全的な立場で対応していくべきではないのかなあと思っている状況でございます。

【渡邊会長】 機会があれば、当審議会の中から、そのような意見があったという事は反映させていただいて。全体の施策に取り込んで頂ければ。

【波多野委員】 どこかの課でうまく出してもらって調整してもらって、縦割りでこれは環境、これは公園と言わずに教育委員会も一緒になって、ひとつの里山作りの場所にしよう。一番のいい候補地は岩船神社から築水池、大谷川上流、最上流までの間を一番良く人が通るところです。天然記念物のシデコブシの林もある。野草園もある。今年も公園緑地課で切ってもらいましたが。ちょうどイワナシがだんだん消えてしまうので、そこを明るくと、出来ればそのコースにコバノミツバツツジの大物がいっぱいあるが、日陰で全然花がつかないので明るくして。そこにはツツジが咲きシデコブシがあり、この間の道筋の谷沿いは蛍も出る。ゲンジボタルの大型が出る。以前はずうっと大谷川の最上流まで蛍が飛んだのですが、だんだん上から消えて、今ちょうど廻間町の岩船神社から林へ入る口元の所から出る。今年は、わかりません。築水池の工事で水が止まっているから。非常に色々な昆虫も多い。ギフチョウも春になると来ます。そういうところですから。また植物園があり、少年自然の家があり。そうした公的機関があるし、一番人が多く通る場所です。あの筋の北斜面あたりをずうっと里山景色をとるというような形と、築水池の向こう、大谷北池の上流は東海豪雨そのままではかってあります。あそこをきれいにするなら良い野外研修の場ともなりますし、なんとかゴミ捨て場の所も整備して、大谷北池の斜面はゴミで高くなってしまったから非常に危険です。池まで一直線の急斜面です。以前は真ん中付近が堤防だったのです。桜が咲いた所です。桜は川に帰ってしまったから、あそこに段を作って山桜ぐらい植えて、危険度を半減させると、そういうような形ですうっと上まで保全してやるといい場所になります。あそこが市内では一番いい場所です。そんなことを思います。

【渡邊会長】 ありがとうございます。ちょっと時間も予定していた時間を押しておりますので。貴重な御意見をありがとうございます。他の委員の皆様からも意見を賜りたいと思いますが、いかがでしょうか。

【加藤委員】 先ほどの助成金に関することですが。年間4,000円出していたのを、今打ち切っているという状態なんですね。

【事務局】 そうですね。

【加藤委員】 保存樹の中で、どうしても春日井市として残しておきたいというような、樹齢の長いような大きい木というのは残してほしいと感じるのですが。ごく一部だけでも。この場で出来る、出来ないというのは難しいとは思

ますけど、どうしても、ごく一部には助成をしていってもいいのではないかなあと、意見として言いたいと思います。

【事務局】 どちらにしても、保存樹の中でどういうケースであれば補助とか、助成とか、あるいは行政が手を入れて保存を図るとか、そういうことが出来るかどうかということは、他市でも保存樹の指定をしております、そういうような関係で出来るのかどうかということ調査して研究していきたいと思えます。

【稲垣重男委員】 先ほど、保存樹が絶えてしまったという話がありましたが、今、そういうものに対していい素材がありまして、発砲スチロールみたいなものですが、その穴に埋めてやってボンドみたいなものを塗っておくと自然に皮が巻いてくるというものもありますので、各業者に言っていただければやれると思えます。どこの業者でもやれると思えます。そこらの所も検討してください。

【渡邊会長】 ありがとうございます。そんなことを参考にさせていただいて、また平成25年度につきましても緑化推進事業を進めていただけたらと思えます。他に御意見はありますか。

【伊藤委員】 ずっと話を聞いていたいと思うぐらいです。30年ぐらい前に春日市の中央通りに嫁に来まして、その頃は沿道にある街路樹の掃除が嫁の最初の仕事で、竹ぼうきを持ってあっちもこっちも、遅れないようにするのが仕事だったので。やはり高齢化というか、30年経ちますと沿道の方々もお歳になられて、気持ちはあっても、ままならない。先ほど保存樹の大切さと枯葉の駆除と、両方、主婦でありますので子育てしながら実感している所あります。実際、自分の家の前のすごくきれいな街路樹なんですけど、一番いい紅葉の時期になると全部ぱっきりされてしまって。夏場のちょこっとした光を作る程度で、きれいなのはよく知っているのですが、その前に、先ほど言われた枯葉の駆除と交通事故、誰かが木の葉ですべったという事だと思えるのですが、みんな紅葉を見によそへ行かれる。時間とお金をかけて、子供も親に連れられて行くと思えるのですが、掃除とか業者にまかせるのではなくて、ここの行事の中にそういった竹ぼうきを持って掃除をしよう、ではないですけど、そういったイベントではないのですが、みんなに興味関心を持つ。

【事務局】 啓発ですね。

【伊藤委員】 はい。ただ大事にしようではなくて。八幡小学校で桜がきれいな所だと、長男の時に言われたのですが、一番下の子の時になったら、近所の苦情だとか先生達の高齢化で、八幡小学校は小さな学校ですから、児童が少ないので清掃の人数も足りないんで、色んな事で桜の木も伐採されてしまいました。本当に情けない姿で、運動会の時に必ず木陰があつて色んな恩恵を受けて

いたのですが、業者まかせ人任せになっている。苦情を言えばどこかが片づけてくれるというのがあるのですが。やはり若い方たちみたいな逆の発想で、みんなで掃除をするとコミュニケーションもとれるし、きれいな風景も遠くまでいかなくても見れるんだという感じで、どうやってやったらいいかという案はないのですが、みんなでやれば嫌な仕事と思われがちなものも実は楽しいんだというような感じで、誰かが旗を持って。コンクールだけではなくて掃除をみんなでしよう、みたいな感じをやっていくと。

【事務局】 我々が子供の頃は、道端、自分の家の前の道路はきれいにしよう。側溝はきれいにしよう。落ち葉があれば掃き集めようというのが当たり前だったのですが、そうではない状況になってきています。そういうような状況の中で、私どもは落合公園から朝宮公園までの間に、ふれあい緑道というものがあります。その木は大きく育っておりまして、周辺の住民の方々からの落ち葉の苦情と言いますか、困ったというようなお話を聞く中で、ここ1、2年、地元の町内会の方で葉っぱ集め隊とかという名前を作りながら、ボランティア的な方々はその時期になると、落ち葉を回収と言いますか、集めて頂いてビニール袋に入れて、それを一定の所に集めて頂いているものですから、私どもといたしましては御連絡を頂いた時に回収に伺うと。その際にはビニール袋等も私の方で用意させて頂いて、そういう物に使って頂くというような事が、少しずつやっていたような状況にあります。ですから、町内の中でもそういうような意識が同じような思いの方が、たぶんおられるとは思いますが、なかなかひとりだけでは行動を起こせないと、何かの拍子にそういう声をあげる方がいるとそれに賛同されて活動が始まるという事が出てきておりますので、御紹介をしながら私どもも、お手伝いができる資材等について協力できるものは協力させていただこうというつもりではありますので、今、お話いただきましたように、どんどん広がる形で、何らかの形で事例紹介と言いますか、そういうことができればと思っております。

【渡邊会長】 地域の事というのは、なかなか難しいですよ。誰か核になって動いてくれる方がいると割とまとまってくるのですが。なかなか発議をして発案していくと自分が中心となってやらないといけないとなると大変です。

【波多野委員】 街路樹はきれいに紅葉するといいと。植えると、紅葉する前に枝を取ってしまう。それは、みんながやかましいから。ゴミ山の葉っぱが落ちると言って。みんなが協力して本当にやっていけばいいのだが、なかなかうまくいかないです。他の人がいいねえと、家の庭に木を植えてと言うのだが、樋が詰まるとか色々言います。植えることも考えてやらないと。樋が詰まったりしないように工夫しないとイケない。緑道でも、生地川みたいに川の両側に桜を植えておけばいいものを縁まで植えたので、があがあ言われて結局は取ら

ないといけなくなる。明るい方へ枝は伸びて川を包んでトンネルが出来るわけです。植えることもある程度考えないといけない。公園でも牛山公園でもどれだけついているかということだ。結局選別がされていない。幼樹だったらいいけれど、そうでないものが。カクレミノが植わっている。あれは林でいったら大きい木から2番目にあるもの。その他アオキまで置いてある。あれは上からいったら3番目、いわゆる暗がりにある木なんです。それがかんかん照りの所に置いてあれば木が気の毒だ。裸で夏に立っておれというのと同じことだ。植える木のこととも考えてもらわないといかん。

【渡邊会長】 地域の活動として緑化推進というのは、非常にいいテーマだと思います。皆さんがそれをきっかけにして集まりながら地域の連携、活性化を図っていくというのは非常にいいテーマだと思いますので、公園緑地課の方でも少し後押しするような何かやっていただけたら。

【稲垣重男委員】 私は、春日井市の大留町に住んでおりますが、下大留町という所ですが、環境美化の会というのを作っております、毎月1回、第1日曜日に会員の方で毎月掃除しております。一度、大留町の公園に見に来て下さい。きれいな公園です。やる気になれば、誰かがリーダーで頑張ればきれいになるんです。だれもそれができない。環境美化の会は結構いいです。

【波多野委員】 天王間公園ですか。

【稲垣重男委員】 下大留町の荒子公園です。表公園とか、松の木公園とか毎月一度必ずやります。全員集まると何百人か集まります。区民が皆集まってやります。そういうシステムをもっと宣伝して、もっとみんなが。コミュニティに戻りますよね。一緒に仕事をしていると。造園屋がそれをやられると、造園屋が食べていけなくなるんですよ。

【渡邊会長】 ありがとうございます。だいぶ時間が押しております、その他、御発言はないようですか。

【内藤委員】 明日も、1か月に1回、町内で会を作って草取りをするんです。公園の緑化をするんです。そういう地域には、たくさん。もうひとつ町内には桜の葉っぱが落ちて落ちて、本当に毎日のように掃いてもダメだから町内の組で決めて、掃除はしないと。掃除はしなくて落ちた落ち葉を楽しもうということで全部落ちたら組の人が集まって掃除をするというふうで、やってみえる所もあるんですね。色んな事を考えながら、地域には活動している方もたくさん見えますので、どこどこが優勝したとか、そういうことだけではなくて、地域の活動も、どんどん宣伝していただけるといいかなと思います。

【渡邊会長】 色々な貴重な御意見をいただき、今日はいい審議会でした。この辺で閉めたいと思いますがよろしいですか。本日はお忙しい中お集まりいただき大変貴重な御意見を多数頂戴いたしました。また平成25年度も緑化推進

をして頂きたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

上記のとおり春日井市緑の審議会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、議長及び出席者1人が署名及び押印する

平成25年 3月29日

議長 渡邊 誠

署名人 稲垣 暁永